

SPECIAL
INTERVIEW

スペシャル・インタビュー

カニサレス Cañizares

2018年4月14日(土)「サラマンカ大学創立800周年記念コンサート“魅惑のスペイン”」に出演する、マドリード在住のカニサレス氏にお話を伺いました。スペイン・ギター界 最高のギタリストで、ジャンルを越えて活躍するスーパー・ギタリスト。豊かな叙情性、超絶テクニックを駆使した切れ味鋭い速弾きと、澄んだ美しい音色が魅力です。

——これまでにサラマンカ市を訪れていらっしゃるカニサレスさんから見た、サラマンカ大学、サラマンカ大聖堂の印象や魅力を教えてください。

サラマンカは、スペインでも歴史のある都市で、サラマンカ大学はヨーロッパ最古の大学のひとつとされています。今回は、そのサラマンカ大学の800周年の記念コンサートで演奏できることを大変光栄に思います。サラマンカの大聖堂は、何度も訪れたことがありますが訪問するたびに、静寂につつまれた大聖堂に身を置くと、壮大な時の流れを感じ、心が穏やかになります。

——スペイン音楽の魅力はどんなところですか？

スペイン音楽の魅力は、感情表現の豊かさと軽快なリズムが特徴と言えると思います。フラメンコの音楽は、そうしたスペインらしさが凝縮された音楽とも言えます。『アランフェス協奏曲』の中にも、フラメンコの非常に特徴的なリズムパターンが随所にみられます。

——演奏を予定されている「アランフェス協奏曲」は、サイモン・ラトル指揮、ベルリンフィルとの共演で大変話題になりました。そのときのエピソードなどお願いします。また、曲の特色や聴きどころなどありましたら、合わせてお願いします。

本番の数ヶ月前、ベルリンフィルの本拠地でラトル氏との初対面を果たしました。楽屋で私を迎えてくださったラトル氏に、私はやや緊張した面持ちで握手をするために手を差し伸べたのですが、彼はその手をグッと引き寄せて、強いハグをしてくれました。そして、事前にお送りしていた私のCDを全て聴いてくださった

と言い、私と会うのを楽しみにしていたと言ってくださいました。この最初の瞬間から大きな安心感といいますか、信頼関係が結べたように思います。ベルリンフィルとの最初のリハーサルは、本番の

約1週間前にオーストリアのザルツブルク祝祭大劇場でありました。私が舞台に登り、ラトル氏がオーケストラの団員に私を紹介してくれる時「今回は、スペインのフラメンコの巨匠がソリストです。我々もリズムで負けるわけにはいきません！」と笑いを誘っていましたが、実際にオーケストラの演奏は非常にリズムカルで迫力があり、それでいて繊細で優雅な音はさすが世界最高峰のオーケストラだと感じずにはいられませんでした。私にとって、ベルリンフィルと演奏させていただいたことは、大変光栄で貴重な体験でした。『アランフェス協奏曲』は3つの楽章からなる協奏曲です。第1楽章は、私のギターのかき鳴らしのリズムからはじまります。このかき鳴らしは、フラメンコに特徴的な「ラスゲアード」と呼ばれるテクニックです。私はもともとフラメンコ・ギタリストですので、このようにフラメンコで使われる技法をあちこちに使用しています。これによって全体的にリズム感が増し、曲のスペインらしさも強調されると思います。第2楽章の有名なメロディーラインは、ロドリーゴ氏が子供を失った悲しみを込めて作曲したと言われています。その悲しみをギター弦にも込めて演奏します。



© Amancio Guillén

——カニサレスさんはフラメンコ・ギタリストとしても一流ですが、クラシックとの共通点や違いなどを教えてください。

フラメンコの音楽とクラシック音楽は、テクニクもアプローチの仕方も全く異なります。そのため、全く別のものとして捉えています。どちらの音楽を演奏するときにも、自分らしさを常に一番大事にしながら演奏するという点では共通していると言えます。フラメンコギターとクラシックギターは、見た目はほとんど同じですが、楽器としては全く別の構造になっています。クラシックギターは音の深みや音質を重視する作りで、フラメンコでは主にリズム重視のための歯切れの良い音を追求する作りです。私は今回のように、フラメンコのテクニクを使いながらクラシックの曲を演奏する機会が多いので、両者の長所を兼ね備えたハイブリッドのギターを使用しています。これは、ベル



© Amancio Guillén

リンフィルとの演奏のために、ギター製作者のビセンテ・カリージョ氏と8ヶ月にわたる試行錯誤を経て作り上げたギターで「カニサレス・モデル」と命名しています。

——指揮者のロベルト・フォレス・ヴェセス氏とはこれまでも共演されているようですが、彼の印象を教えてください。

彼と初めて共演したのは、2013年、東京国際フォーラムです。ラ・フォル・ジュルネという最大級のクラシック音楽のフェスティバルでのことでした。この時には、日本人の素晴らしいギタリスト、荘村清志さん、鈴木大介さん、大萩康司さんと一緒に、ロドリゴの4本のギターとオーケストラのための協奏曲を演奏しました。リズムカルで音楽の中に眠るスペインらしさを最大限に引き出してくれる、素晴らしい指揮者です。今回日本へ行く直前にもフォレス氏と、私が作曲したギターとオーケストラのための『アル・アンダルス協奏曲』を演奏する予定です。先日も電話で話しましたが、お互いに再演をととても楽しみにしています。

——最後に、サラマンカホールでの演奏を楽しみにしている皆さんにメッセージをお願いします。

以前にもプライベートで岐阜県を訪れたことがあり、とても思い出に残っている地の一つです。長良川の鵜飼いを堪能したり、白川郷の合掌造りの家を訪れた時に、いつかギターの演奏で岐阜県を訪れたいと思っておりまして、今回サラマンカホールで演奏できることを、とても楽しみにしています。たくさんの方々の心に残るようなギターの演奏ができればと思っています。会場でお会いしましょう！

通訳：小倉 真理子

サラマンカ大学創立 800 周年記念コンサート

魅惑のスペイン

～必聴!!! 名フィルと世界最高のギタリストによるアランフェス協奏曲

残席
わずか

2018. 4/14(土) 開場15:00 開演16:00 S席 4,500円 A席 3,500円

※サラマンカメイトは1割引 ※学生半額(30歳まで)
※未就学児の入場はご遠慮ください

《Program》 ※曲目が変更になる場合があります。

ブラームス：大学祝典序曲 作品 80

アルベニス：スペイン組曲 作品 47 より「グラナダ」(管弦楽版)

ロドリゴ：アランフェス協奏曲

ファリャ：バレエ音楽「三角帽子」第1組曲、第2組曲 ほか

創作能舞：サラマンカ SALAMANCA ※パイプオルガンと能の共演

能舞 辰巳満次郎 オルガン 鈴木優人



管弦楽：名古屋フィルハーモニー交響楽団



© Jean-Baptiste Millot

指揮：ロベルト・フォレス・ヴェセス



© Amancio Guillén

ギター：カニサレス

主催：サラマンカ大学創立800周年記念事業実行委員会

共催：岐阜県、サラマンカホール

後援：スペイン大使館

協力：日本サラマンカ大学友の会

サラマンカホール チケットセンター ☎058-277-1110 ほか プレイガイドにて

サラマンカホール

検索

